

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	事業所独自の理念を掲げており、町内、地域との交流も年々深まってきていて、地域、町内の方々への認識も以前より高くなっている為、それらを大切にしながら向上に努め、更なる地域との連携を深めるよう取り組んでいる。	運営推進会議を当ホームにて実施し事業所の理念などを含め、その人らしく暮らせるよう、町内の行事などに参加をし交流を深めている。
2	理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	管理者と職員は理念を共有し、理念を元に管理者と職員間での情報伝達、情報の共有が日常的に活発におこなわれている。	理念を念頭に、月1回の職員会議・勉強会の実施、月1回のカンファレンスにて管理者、職員間での話し合いが持たれ、実践に向けて取り組んでいる。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	月1回事業所より家族へ「ポブラ便り」の発行。又、各担当者から各利用者の家族へ状況報告のお手紙を発行している。町内や地域に向けては、「ポブラ通信」を回覧板にて搭載、さらに地域へ新聞店より「竹の子新聞」に紹介をしていただく等、ポブラを理解してもらえるよう取り組んでいる。	事業所はご家族を始め地域の中で安心して暮らせるよう「ポブラ」を、日頃から理念を幅広く理解して頂けるよう取り組みをしている。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近隣の方たちとの挨拶も日常的に交わされ、年々と気さくなお付き合いが出来るような環境作りが出来てきている。	お花や果物をごく普通の家庭の付き合い同様、おすそ分けに持ってきたくれたり、除雪の手伝いをしてくださっている、又ホームからも近所で行われているフリーマーケットに訪問、生協での買い物は顔なじみとなり日常的な付き合いが出来ている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内清掃、新年会、行事へは可能な限り参加している。又、避難訓練時には近隣者、町内役員の参加で協力の大切さを理解されている、又、運営推進会議時を通じ交流に努めている。	事業所は孤立する事のないように、地域活動のひとつに「子供非難所」を実施し、ポブラ通信では、鍵を無くして自宅に入れない等時、待機場所として活用を伝えている他、非難場所として町内に2ヶ所あるデイサービスと互いに協力する形になっている。
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	町内の中で高齢者の一人暮らしの方について、支援や定期訪問などの実施について暮らしの中で役に立つことが無いか話し合い、現在は高齢者の方が自宅に入れなくなった等時に待機して頂けるよう取り組んでいる。	運営推進会議にて町内の方と、町内の中で高齢者で1人暮らしの把握について情報交換が行われている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>毎年自己評価をす職員する際、現時点での不足点、改善点を再認識し評価を元に改善に取り組んでいる。</p>	<p>外部評価での改善点を早急に解決し、速やかに実施している。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>町内の方、町内役員、包括支援センター、デイサービス代表者を交えて当ホームの利用状況を伝え意見交換、情報伝達などで利用者のサービス向上に取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議では、地域の方々が参加をされていて、アドバイスも有り、改善すべき点は早急に対応し改善としている。グループホームでの暮らしなどを伝えていく事で理解が深まって来ているので他からの意見やアドバイスを取り入れ、今後も更なる取り組みを行っていく。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市町村とは必要に応じた以外にも支援、サービスなどで出向いたり、電話で相談できる機会を作っている。そうしたことでアドバイスを頂き更なるサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市町村担当者・包括支援センター担当者とは、相談や不明な事をほかに、今後の事業所の取り組み方についてなどで出向く機会を作り、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>研修等で成年後見制度について学び理解し、勉強会や必要性の利用者がいることで、職員へ伝達し活用出来る支援を行っている。</p>	<p>職員全員が権利擁護に関する制度の理解を学べるよう会議などに取り入れをし、必要時に円滑に活用出来るよう取り組みをしていきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>職員会議、勉強会、研修等で高齢者虐待防止について学び、当ホームにおいて高齢者百対防止法に関する理解の浸透に取り組んでいる。</p>	<p>虐待防止の徹底においても、身体観察は入浴時・起床時・就寝時に行っている。又、虐待になるのか等、日々の中で虐待が見過ごされないよう最善なる注意、防止に努めている。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約を結んだり、解約を行う際は、利用者をはじめ、ご家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い、理解・納得を図っている。特に事業所のケアに関する考え、医療連携、看取り、状態の変化時の対応を理解して頂けるよう取り組んでいる。</p>	<p>利用者・ご家族を含め面談をし思いや考えをお聞きし、事業所における理念を実践していく意味で、しっかり話し合い納得・理解をして頂いて頂けるよう取り組みを図っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常的から個人個人との関わりを多く持つ事で、利用者からの意見・不満などを聞き取る・感じ取るよう配慮し、又、家族から気軽に話が出来環境の提供を取り組んでいる。家族・利用者・ホームの繋がりで運営に反映させている。		利用者が「したい事」「こうしてほしい」「これは嫌だ」と、言葉や表情を素直に現せる環境を作り。又、職員との信頼関係を重視して、それらを運営の反映としている。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	ご家族の面会時は必ず時間を設け、体調面では往診・訪問看護師からの近況報告をし、ホーム内での細かい変化等を伝えている。又、金銭面での確認は月初めに預かり帳の内容と金額の確認をして頂いている。その他で相談などがある時は事前に電話をかけた後、毎月ポプラ便りを発行すると共に、各利用者の担当職員は手書きにてご家族へお手紙を書き報告を個々に行っている。(年4回のポプラアンケート調査も行っている)		面会時に最近の心身状況報告や月1回の家族へ利用者の報告などを行っている他、なんらかの伝達事項がある時は電話をかけて知らせる等、細かく個々に報告をおこなっている。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年に4回(春・夏・秋・冬)事業所よりご家族へアンケートを発行し、施設長のみが個人の意見やアドバイスを把握され、職員会議時にアンケートを活かし運営に反映させている。		ポプラアンケートの個別情報は施設長のみとされ、会議で家族や利用者名は知らされず、あくまでも改善点とし施設長より職員へ話し合いとなり全体的に速やかな対応が出来るよう取り組みがされている。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営者が施設長の為、現場にて管理者を元に職員の意見や提案を随時聞いて貰える環境なので、日々の職員や管理者の意見は反映されている。		運営者が施設長で現場に携わっていることで職員の意見や提案などは随時、話せる環境である事が何よりの理解者である。職員は管理者との交流がスムーズに図れていて会議やカンファレンス以外にも意見や提案を聞く機会を作っている。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状態や状況に応じ、変化に対応できるよう職員や勤務の調整は確保できている。		必要な人員は確保されているが、緊急時などの対応には運営者が入るなどして、勤務の調整を柔軟に行う事が出来ている。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の入れ替えは少なく、職員が離職する時は利用者の状態にダメージが起きないよう馴染みの関係が出来ている為、最小限に抑えらるよう配慮している。		利用者からすると、馴染みの人が居なくなる時は、利用者の精神安定を図るよう配慮している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>その人その人のレベルに応じた指導がなされている。事業所以外での研修はなるべく多くの職員が参加できるようにしている。新人指導に当たっては暫くの間、ワンツーマン体制を実施し得て増えを把握しながら指導を進めている。</p>	<p>職員が研修に均等に参加できるよう取り計らい、日々の仕事内容についても、その人にあった指導が進められている。毎月の勉強会を活用している。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>運営者及び管理者は地区の管理者会議等で、近隣の事業所が行き来できるよう担当を決めるなどをし、他ホームの見学や意見交換を行っている。又、関連事業所などとも、交流を持つことでサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>他の事業所の職員が少しでも多くの同業者と交流が出来るよう役割を設け、情報交換などが行われている。相互の訪問が気軽に出来、刺激が持たせてサービスの質の向上に繋がっている。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>仕事上の悩み、相談などは職員同士、仲が良くコミュニケーションがとれている為、その都度ストレス発散をし抱え込まないような環境が出来ている。</p>	<p>運営者や管理者は職員と食事会を行ったり、休憩時間・電話などで気軽に話せる雰囲気や言葉掛けをし、職員のストレス軽減や発散に取り組んでいる。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>運営者は管理者や職員個々の努力や勤務状況を把握するとともに、やりがいを持たせるように、給与水準や休暇も考慮して各自が向上心を持って働けるように努めている。又、身体に負担が最低限に抑えられるようシフトも考えている。</p>	<p>運営者が施設長な為、各職員の努力や実績を見ており、各自が向上心を忘れないように声掛けに努めている。健康診断の実施で職員の心身の健康にも考慮するなどに対応している</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	<p>本人の意、希望などは細かく確認し、落着けるまで環境整備の配慮を行い、少しでも早く安心して暮らせるよう家族と密な相談を行いつつ、可能な限り柔軟な対応を含めた対応に努めている。</p>	<p>関わりを多くもち、不安な事、求めている事、思っている事を傾聴又は探しながら受け止める努力をしている。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前には必ず見学をして頂く他に、実際にホームにて利用者の過ごし方を実感して貰いながら、家族の気持を良く傾聴し、本人が安心して、自由に、その人らしく生活できる様、家族の協力を頂きながら家族との信頼関係が作れるように努力している</p>	<p>今までの家族の苦勞やサービスの利用状況を聞き、これまでの経緯についても、ゆっくり傾聴をする。又、情報交換を細かい所から知る事で利用前と利用してからとのダメージを最小限にする為に家族との関わりを多く持ちながら支援に努力をしている。</p>

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいない項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>利用者の現時点での状況、又は家族の思いなどを詳しく傾聴し、信頼関係を築きながら本人の意向や家族の意向も受け入れ、その時に合ったサービスに繋がるよう努めている。</p>		<p>必要に応じたデイサービスの利用、通院など、利用者の状況に合わせたサービスを家族と共に相談しながら取り組んでいる。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>入居するにあたり、本人が安心し、納得して頂くために何度も来訪して頂く事もある。来訪出来ない方には訪問する事で、顔を覚えて頂いたり、なんとなく覚え貰えるように努め、十分に焦らず時間をかけ、ゆっくり馴染めるよう家族を交え工夫をしている。</p>		<p>不明な点、質問などは何度でも細かく説明を行い、快く入居出来るまで時間をかけての実施に努めている。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>普段から利用者との関わり・コミュニケーションを重要視し、可能な限り色々な事が共有できるように努め、更に喜怒哀楽も共にしつつ、支え合う関係が築けている。</p>		<p>利用者から沢山の事を学ぶ事も有り、困っている時は互いに支え合える関係が作れていて、心の繋がりを大切に築いている。</p>
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>職員は、家族と利用者の双方について、利用者の細かい様子などを伝える他、職員と家族が常に利用者を支えて行く為に、本音で話し合う事で、共に笑ったり、泣いたり、不満があれば伝えられるような関係が出来ているため、本人を、どう支えたら良いか共に考え支援している。</p>		<p>出来た事、出来なくなった事、今一番困っている事を共に受け止め、最善の努力をし、ベストの状態に近づけられるよう、家族と共有した関係を保ち、支援出来ている。</p>
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>可能な限り、家族を巻き込みながら、本人の気持や家族の気持を把握し、何でも話せる関係作りが築けている為、本人への支援が上手く行くよう支援できている。</p>		<p>面会時などで、必ずじかんを取り、家族と話しが持てるように努めている。又、困っている事や要望などを聞きだせる関係に日常から心がけ支援に繋げている。</p>
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>利用者が今まで大切にしてきた馴染みの人・場所など(家族・床屋・お寺・友人・知人・親戚など)の関係が途切れないような環境に努め、行き来が出来たり、馴染みの場においては職員が同行するなど、可能な限りの支援に努めている。</p>		<p>利用者への訪問・電話などには職員も配慮し利用者との馴染みが途切れないよう努めている。又、利用者が遠慮しないよう言葉かけなどにも考慮し支援に努めている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係においては情報連携し、職員が共有できるようにしている。又、ティータイム時は職員も加わって利用者同士の関係が円滑になるよう取り組んでいる。利用者が自然と居間に集まり、利用者自身が気の合う仲間を見つけ出したりしているため、職員は関係を把握し利用者が孤立する事のないよう座席の配置や職員が中に入り、関わりが持てるよう努めている。		孤立せず気の合った人同士が自然と一緒にいる。又、利用者同士の関係がうまくいくように職員が調整役となり支援している。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用が終了してからも、継続的な関わりを必要とされる利用者、ご家族には関係を断ち切らない付き合いを大切にしている。尚、必要に応じて情報提供し、きめ細かい連携を心掛けている。		退居されてからも、年賀状のやりとりや、葉書・写真を送って下さるなど必要に応じて行われている。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりが、その人らしく暮らして頂けるよう、日常生活の中の言葉や表情、または、要望・意向などを反映させた個別ケアを重視している。困難な場合は家族より本人の意を配慮し、都度検討している。		利用者からの意向・要望などが話しやすい環境や関係作りに重点をおいて支援を行っている。本人にとって、どのように暮らすことが最良なのか家族を交えて話し合っている。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	全職員は利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方を把握する事に努め、家族からも後々で解ったことなども重要な点とし常に生活歴は職員が共有できるよう努めている。		職員間同士での利用者の情報伝達・情報交換が日常的に交わされるよう、目のつく場所に置いて自然と職員が手にとり、利用者の生活環境、サービス利用を把握出来るように設置されている。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	利用者一人ひとりの生活リズムを把握、理解し、小さな変化などを感じ取り、その人全体の把握に努めている。又、ケース記録の気づいた点に書き込みをするなど行ない1日の状況が把握出来るよう工夫している。		小さな変化や気づいた点は日誌に記入され、全職員が状態変化の把握ができるようになっている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	課題とケアの有り方について、職員会議、カンファレンスが実施されている他に、必要な関係者・介護支援専門員の適切な管理のもとにアドバイスが聞かれ、それらを元に介護計画が作成されている。		会議、カンファレンスで課題を明確にし、関係者・介護支援専門員監理のもとに、情報を共有し反映した必要に応じた介護計画が作成されている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		利用者の状況を日々観察し、変化があった時は速やかにカンファレンスを開き本利用者の現状に合った介護支援方法を職員で検討し、尚かつ、介護支援専門員の適切な監理又は主治医の意見を取り入れ、本人、ご家族に変更の必要性を話し合い、現状に即した介護計画を作成している。
38 個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		個別ケア記録や業務日誌への記入・家族へ月1回の手紙にも情報を知らせている。職員全員は記録時に色分けをし見やすいように工夫。記録の中には表情や発言内容も記入し気づきに繋がるよう活かしている。、新しい発見など時も情報を共有し実践に取り組めるよう随時、介護計画の見直しに活かしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		本人、家族の状況に応じて、事業所側で通院や送迎など必要とされた場合は可能な限り対応している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働	本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。		利用者が安心して地域の中で暮らせるよう運営推進会議をもとに、地域との協力関係が円滑に運ばれるようになり、町内の地区センターの活用やフリーマーケットの利用、子供避難所も積極的にに行い協力しながら支援できている。
41 他のサービスの活用支援	本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。		本人の意向や必要性に応じて訪問理容・美容のサービス利用、又はマッサージ・針治療を利用し、利用者が心身の力を可能な限り発揮できるよう名暮らしを支援している。
42 地域包括支援センターとの協働	本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		必要に応じて、他の事業所と連携を取れるよう心掛けていて、他の管理者やケアマネとも相談をしたり、地域の児童会館より「子供110番」をさせて頂くなど近くの生協には毎日のように利用者と同じ物に行くので可能な限り暮らしを楽しめるよう支援している。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援をしている。</p>	<p>本人やご家族の希望を聞き、納得が得られた上で事業所の協力医での医療を受けて貰えるように行っている。又、必要に応じ往診が主になっていて利用者の身体の負担軽減に配慮している。緊急時なども適切な指示や医療を受ける事の体制がとられている。</p>		<p>利用者の体調変化が生じた時に、かかりつけ医と随時相談が出来る連携がなされており、親切に解り易い指示を出して頂いている。緊急時にも医療の対応が行われる体制となっていて、本人・ご家族が安心して頂けるような支援となっている。今現在は他の病院での受診を希望されている方はいない。</p>
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>認知症専門医との医療関係が築きあげられており、随時、利用者の変化などが見られた時には、気軽に医師へ相談が出来る関係となっていて速やかな指示や対応ができる支援をしている。</p>		<p>認知症専門医への受診時には、利用者の細かな状況や状態を伝え、事業所での支援状況なども含め、その都度、利用者の変化などに合わせたアドバイスを貰いながら支援を行っている。</p>
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>訪問看護ステーションと連携を行っている為、週1回看護師が来訪され、利用者の健康状態を把握し、24時間の連携体制が出来ている。又、かかりつけ医の看護師とも連携がとれており、利用者の変化等の相談が気軽に終わられて医療活用の支援が出来ている。</p>		<p>利用者の体調変化等を見逃さないよう取り組みをしている他変化が起きた時は何時でも看護師に相談をし、日常の健康管理や医療活用を行っている。</p>
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院によるダメージを可能な限り抑える為、病院関係との情報交換を密にし事業所での対応可能を伝えるとともに早期退院にむけられるよう全員で方針を共有できている。</p>		<p>家族と全員で意思の確認をし、医療関係などの意向も含め利用者にとって最善なる対応をし、早期退院に繋がるよ方針を共有している。</p>
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化に伴う意思確認書を作成して、入居時より家族の意向を確認しながら、事業所が可能な限り対応出来る支援の説明を含め、かかりつけ医と繰り返し、本人や家族、職員全員で方針を共有している。</p>		<p>家族が当ホームでの看取りを望まれた場合、十分に家族・医療と話し合い状況を見極めながら全員の意思確認を行うとともに、安心して納得した最期を迎えられるよう方針を共有している。</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>家族には、かかりつけ医の指示の元で、職員や事業所が「出来る事・出来ない事」を明確に伝えチーム全員で統一したケアが出来る様、今後の変化に備えて検討や準備に取り組んでいる。</p>		<p>面会時には、その都度、家族との関わりを大切に、その時その時の要望を聞き入れ、事前から支援に取り組んでいる。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>入居時や退居時には、利用者の精神的ダメージを最小限にする為にメンタル面でのケアを強化し、関係者間との情報交換を細かくおこない、ダメージを防ぐ事に努めている。</p>		<p>利用者の生活暦を含め、当ホームでの有り方を上手に関連性が持てるよう配慮し、その人らしさが保てるよう支援に努めている。</p>
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>一人ひとりの誇りやプライバシーを確保する為にも、一人ひとり言葉掛けや対応を利用者に合わせている。個人の記録や情報に関しても、その情報の個別性や守秘義務について十分理解し、管理を行っている。</p>		<p>プライバシーを配慮し、羞恥心や本人の気持ちを大切に考え、環境を整える事や、個々を知る事で対応している。</p>
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>一人ひとりに合った声掛けや説明をし、けして職員側の都合にあわせる事は無く、本人の意思や表情を見極め、利用者の中で自己選択、自己決定をして頂くなど、日々の中に自然と本人が納得して暮らせるよう支援を行っている。</p>		<p>一人ひとりの状態に合わせ、本人が意思表示しやすいように働きかけを行っている。又、可能な限り本人が「したい事」「したい」と思った時に、出きるよう支援に取り組んでいる。</p>
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>基本的な1日の流れは有るが、職員側の業務を優先にしないで、個々の体調や、気持ちを優先し、その人らしい暮らしが出来るよう、個別性の有る支援を行っている。</p>		<p>あくまでも業務優先では無く、利用者のペースに合わせ、その日その日、その都度、動けるように心がけ、利用者の希望に添えるよう支援している。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>その人らしい暮らしを続けられるよう、本人が自発的に服などが選べるよう言葉をけしたり、利用者の好みを把握しながら必要時は支援し、又、メイクを好まれている方には職員が出来ない部分を手伝い、理容・美容も希望があれば、行き付けの理美容もしくは、訪問理美容を使用している。服なども選べる事が可能な方と買い物に向く事も行っている。その為、身だしなみや、お洒落は、その人らしさが出来るように努められている。</p>		<p>当ホームでの職員はユニホームは無く、家庭的な雰囲気になるよう考慮し、利用者の身だしなみは、何時も清潔に心がけている。食べこぼしや汚れたときには着替えを行う等、その人らしさが保てるよう取り組んでいる。</p>
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>利用者の食べたい物を把握し、職員がバランスを考え、又、利用者と共に献立に取り入れる等工夫したメニューになっている。食事が楽しみとなり、時には個人的に違うメニューの対応の実施もおこなっている。職員も一緒に席に座り雑談やメニューの材料が話題になるなど、楽しく食事が出来る取り組みをしている。食べる時間もその人に合わせるようにしている。利用者と一緒に片付けや準備、盛り付けなど、可能な方と行なわれている。</p>		<p>食事の時間が一番楽しみとされている為、「・・・が食べたい」などの要望を取り入れ、旬の物も四季を通じて取り入れている。食事の仕度をしてい際には居間に香りが広がる為、食事が出来上がるのを楽しみにされている。利用者に応じて器や箸にも気配りをし、本人の力で食べながら喜びを味わって頂けるよう支援に取り組んでいる。月に何度か個々の食べたい店に行き食べる事を楽しめるよう支援している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	利用者の中で、飲み物やおやつ等が自己管理出来る方は、好きな飲食を居室に置かれている。(生のも以外)一人ひとりの状況や嗜好に合わせて提供を行っている。近所のスーパーに本人が食べたいおやつを希望された時などは、職員が同行し買い物を楽しまれ、時にはケーキ屋さんや喫茶店に行ける人は外へ出て楽しませている。		利用者の体調管理を含め、水分摂取量の少ない方へは、好きな飲み物を用意し、おやつに関しても懐かしいおやつを見つけて来たり、手作りの物を提供するなど、楽しめるよう工夫し支援を行っている。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるように支援している。	限界まで、オムツやパットの使用はせず対応している。失敗した時には自尊心に配慮し、尿意ない利用者には時間を見計らい誘導している。利用者の排泄パターンを職員が把握する事で気持ちよく排泄できるように支援が出来ている。		トイレで排泄が気持ちよくできるよう声掛けや誘導を行うと共に、トイレ内の環境や清潔を徹底し、排泄後にはウォッシュレットやウエットティッシュにて本人が常に気持ちよいを思えるよう支援している。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	一人ひとりの希望日や時間帯など可能な限り本人の意に添うよう心がけ入浴を楽しめるよう支援している。又、ゆっくり時間をかけて入浴したい方へは順番なども考え、入浴剤の使用で香りを楽しむ他に湯加減や職員と会話が弾むように工夫をし「気持ち良かった」と思える支援を行っている。		入浴が好きな方は、可能な限り多く入浴できるようにし、入浴を、あまり好まない方も週2回は清潔保持の為、言葉がけや好む職員・チームプレイにて利用者に合わせて入浴支援を行っている。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日常を通じて自己決定出来る方は自由に過ごして頂き、意思を伝えられない方には、本人の状態や状況を見極め必要と思われる時は言葉がけにて休息を促す支援の実施。外出や面会などに合わせて個別に休息をして頂いている。室温・湿度の調整や光など環境を整え、安心して休息したり眠れるように支援をおこなっている。		1日の生活リズムを保ちながら、個々に合わせた休息を支援し、午後3時頃より穏やかな環境作りを行い、自然と就寝に向かうよう工夫をおこなっている。就寝時に何らかの不安が有りそうな時は職員が話を傾聴、温かい飲み物を提供し、安心して眠れるよう支援している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりが役割を持つことで、自信や喜び・達成感に繋がり、やりがいと感じられ自ら進んで個々の作業、やりたい事が楽しみながら出来るよう支援をしている。又、利用者同士で協力して作業をしながら、お喋りをする事で気晴らしにもつながっている。		自信・やりがい・楽しみが失われないよう、個々に対し、その都度、感謝の言葉かけを徹底している。日々楽しく充実して過ごせるよう努めている。
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一人ひとりの希望や力に応じて同時に、家族と話し合い、本人に所持して頂いたり(少額)、実際にお金を使う事で社会性の維持につながる。又、事業所で管理している方でも外出時はお金を渡し支払いをして貰うよう支援している		少額を所持して頂いたり、買い物に行く時は本人自ら支払ったりする事を支援している。お金が有る安心感に配慮をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	一人ひとりの習慣や嗜好を把握し、日常の中でも希望に添えるよう、色々な所へ外出している。外出刷る事で気分転換、ホームの中では見られない表情が有り生き生きとされている。総合的に近くであったり、時間をかけて満足が出来るよう最善を尽くし利用者の意欲や自立に繋がるよう支援に取り組んでいる。		当日の健康状態を把握し、可能な限り多く外出ができるよう業務を優先にせず利用者の希望や気分転換が必要とされるような時は少しの時間であったとしても、車を使用したり、徒歩や車椅子などで対応し利用者が満足できるよう支援している。
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	普段行けない場所などで、家族も多忙にて行けない時は、個々に職員が叶えられる所で有れば出かけている。又、家族と長年行けなかった一泊の温泉旅行を実施して、家族も共に参加されたり利用者が共に楽しめる機会を作り支援している。		可能な限り実現に近づけるよう取り組みをしており、個別に出かけたり、家族と共に外出をしたりできる機会作りの支援を行っている。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	携帯電話を使用されている方は居室にて自由に使用されている。殆どの利用者は自ら電話の使用をしないため、話の中から、又は、手紙や贈り物が届いたときには職員が相手の方、家族と話しができるような環境を支援し、ホームに親戚や友人から電話が掛け易い状態を保っている。		用事や電話をしたい時は何時でも使用できるよう支援している。帰宅訴えや、心配になった時なども、家族へとの連携が出来ているため利用者の不安などが解消されるよう支援に取り組んでいる。
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	利用者の友人、家族が何時でも気軽に訪問されていて、居室にて好きなだけゆっくり過ごして頂けるようテーブル、飲み物を用意し工夫をしている。		居室で、お弁当や出前を取ったり、一緒に昼寝をされたり、入浴も一緒に入られる家族もいて、遠慮なく過ごせる家庭的な雰囲気や、居心地の良さに取り組んでいる。
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	運営者が施設長と言う事もあり、管理者、職員に日頃より、身体拘束をしないケアは、どういった事なのか説明がある。又、さりげない言葉がけ一つをとっても注意がなされる。駄目は禁止とせられていて、外へ出て行きそうな時は職員が同行している。		あくまでも、身体拘束をしないケアに取り組みがなされ、利用者は自由に暮らせるよう支援している。
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間のみ、不審者の防止を考え鍵は掛けているが、日中は開放されていて家族などは自由にホームに入って来られている。居室には一切鍵は掛けていない取り組みとなっている。		利用者の行動を見守ることで、居室や玄関の鍵をかける必要性はない。夜間の戸締りのみ行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は連携を取りながら、常時、個々が何処で何をしているのか把握し、利用者の安全に配慮している。又、自室で過ごされている方にも、プライバシーに配慮しながら確認を行っている。		職員同士での。情報伝達は迅速に、又、適格に行われ、事故が起きないように取り組みがなされている。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて危険な物品は職員側で工夫し管理をし危険を防ぐ取り組みをしている。		注意の必要な人へは、十分に確認をしていると共に、個人で管理できる方でもマッチャライターは火災に繋がる為職員側で管理を行っている。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	リスクマネジメントに努め、一人ひとりが安全に生活できるよう取り組んでいる。		転倒リスクの高い方には工夫をし対応がなされている。誤薬が無いよう管理者、常勤社員が管理している。その日の状態も情報伝達の徹底にて事故が起きないように取り組んでいる。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急マニュアルのほか、急変や事故発生時に備えて、応急手当や初期対応について職員間で把握されており、非常事態時は対応方法などについて対応されている。		事故発生時は速やかに管理者及び施設長へ連絡をとると共に、主治医・病院等へ連絡し適切な指示を貰う対応もできていて速やかな対応に努めている。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回、日中・夜間帯を想定した避難訓練を元に、消防・地域役員、近隣の方にも参加をして頂き、避難方法を身につける取り組みを行っている。地域の方の協力が得られる状況に現在はなっている。		避難訓練時には、職員が動揺しないで利用者の安全確保を行うとともに、避難訓練時は近隣の方や地域役員が積極的に参加していただき、「災害においては、皆が協力しないと大変な事になる」と実感されより多くの方へ協力が得られるように日頃から働きかけている。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	リスクが高い利用者に対し、本人にも説明を行うと共に、家族にも、ありのままの状態を伝え、利用者にとって抑圧感のない暮らしにするために、家族を含め対応策に取り組んでいる。		抑圧感のないよう、自尊心に配慮しながら、利用者、家族、事業所が納得出来て安全にらせるよう話し合い、対応策を考えている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	常に一人ひとりの体調変化に気づくことに敏速に気づき、職員は情報の伝達を共有し把握するよう努めている。血圧、熱、心拍、水分量、排便確認をこまめに実施している)		体調変化時の職員間での情報の共有をするとともに、医師へ連絡、相談し指示を仰いでいる。
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員は利用者の服薬内容、副作用について学ぶとともに、薬辞典で調べるなど把握している。薬の変更時は日誌に記録し職員全員が解るように努めている。		薬の変更があった場合は、状態を細かく観察し、変更になった事や服薬にて状態の変化が起きたときには速やかに医師に連絡し相談をする事になっている。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排泄記録を元に日々飲食物を工夫している。職員は利用者が少しでも身体を自然に動かせるよう歩く事を取り入れるよう取り組んでいる。		食物繊維を多く摂取したり、乳製品を多くとるなど献立に取り入れ、個々の排便リズムを把握しスムーズな排便になるよう取り組んでいる。
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の口腔ケアを実施。、又、個々の出きる力を把握し支援している。毎週訪問歯科が来ている為アドバイスを貰い実行している。		歯ブラシだけではなく、歯間ブラシ、舌ブラシを使用し残存歯を大事にし、口腔ケアの支援をおこなっている。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの体調を把握するとともに、状態により医師より指導が有る時は指示に従う。尚、1日の栄養摂取や水分確保は、個々に全て記入していて、不足がち時は速やかに本人の好みの飲食物で捕食し必要な量を確保できるよう支援している。一人ひとりの状態や習慣に合わせて、刻み食・トロミ食・食べる時間などにも柔軟に取り入れ利用者の支援にあたっている。		献立の栄養バランスに工夫をし、食欲や水分もなかなか摂取できない時は、捕食にて栄養を摂取し、水分も同様に工夫をし一人ひとりが一日を通じてバランスが取れるよう支援を行っている。
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルが有り、日々対応に取り組んでいる。職員も予防の意味を理解している為、手洗い・消毒・うがいなどの実施が徹底されている。		インフルエンザは利用者・職員全員が受け、職員は年1回健康診断を受けている。又、感染症予防には日頃から、各所に徹底した清掃を行うとともに、手洗い、消毒、うがいを実行している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>79 食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>食中毒予防の為、調理器具や台所に関わる物は使用の都度、ブリーチにて殺菌を行っている。食材は加熱・冷却・冷凍をし、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>		<p>食材の管理は食中毒にならない様常に食材の点検をし、冷凍・冷蔵にも気をつけている。調理器具などはブリーチの使用にて殺菌や食中毒に気をつけている。</p>
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>			
<p>80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>利用者が安心して出入りできるよう、玄関のスロープは滑り止めを使用し、手すりも両サイドに取り付けられている。冬季以外は玄関先にベンチやプランターでガーデニングで賑わっている。ベンチでは通り道に休んでいる方や学生もお喋りをする姿が見られる。利用者が外の掃除や洗濯を干す際障害物が無いよう配慮している。</p>		<p>ホームと見えないような一般家庭らしい雰囲気となっている又、利用者の出入りが楽なように手すりやスロープ、滑り止めに工夫がされている。</p>
<p>81 居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共用空間は、利用者が自宅でも使用していた様な家具にしている。廊下に観葉植物が有り、利用者が育てている。又、植物を見ながら一息が出来るような寛ぎの場所を設けて活用されている。イベントの写真なども掲示し、生活感や季節間を取り入れ、居心地よく過ごせるような工夫をしている。不快な音は住宅地に有る為、感じる事はない。</p>		<p>共同空間では、五感の刺激への配慮を行っている。音、光、におい、色など職員は感じなくても、利用者が心地良く安心して暮らしの場となるよう努めている。「我が家に帰って来たよ!」と外泊から戻られるかたもいます。</p>
<p>82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>共用空間では、ベランダ側の食卓で新聞や雑誌を見たり、裁縫をしたり、個々に自由に過ごせる環境に努めている。その中で利用者同士が会話や作業に取り組みされている。廊下には一人になれるスペースを設け、読書、外を眺める、植木を眺めるなどと工夫している。</p>		<p>安心出来る個々の場所、居場所を把握しながら、時通に過ぎて頂けるように支援しています。</p>
<p>83 居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室は本人が使用していた家具や使い慣れた物を持って来て頂いている。本人が居室で馴染みのものに囲まれ、安心して居心地よく過ごせるような工夫をしている。(ご家族にも協力を理解して頂いている)</p>		<p>入居時に家族に利用者が愛用していた、家具や私物を出きるだけ用意して頂いている。</p>
<p>84 換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>気になる匂いや空気のおどみが無いように朝の掃除時には窓を開け換気し、湿度計と案時計を各居室、居間に設置している。又、各利用者によって居室の温度を変えるなど配慮している。</p>		<p>換気の実施、加湿器や換気に配慮した取り組みを行っている。</p>
<p>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ホーム内は身体機能に合わせ、可能な限り自立した生活が送れるよう、廊下に手すり、トイレ内や浴槽、居室にも一人ひとりに合わせた手すりを増やすなどを行っている。ベットや椅子などの高さ調整や、足元が滑らないようマットを使用するなど個々に合わせた工夫に取り組んでいる。		居室、浴室、玄関、トイレなど必要に応じて設備を増やし、より一人で身体機能が安心して活かされるように工夫した取り組みをおこなっている。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレなどすぐ見てわかるように文字板などを貼り、居室前にも本人の部屋だと解るように、名札、ノレン、利用者手作りの作品を掲示し混乱しない工夫をしている。又、食器なども以前から使用していたものであったり、個々に合わせた物を用意している。居室にあるタンスにも、混乱が生じないよう、衣類の種類を書いた紙を貼ることで自ら整理しやすいように、出来るだけ自立して暮らせるよう工夫をしている。		一人ひとりに合わせたケアを重視すると共に、今まで出来なかったことを見守りの中、残存機能を活かし自立支援に努めている。尚且つ、見極めをし混乱や失敗を防ぎ、統一したケアをおこなっている。
87	建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ホームの前にはベンチ・ガーデニングで外気浴をしながら見れるように配置し、ベランダ側には洗濯物干しがあり、利用者と職員が共に作業をし、裏庭にのベンチとテーブルにてティータイム、焼肉ができるよう設置されささやかながら楽しんでいる。、小さいながらも家庭菜園を行っていて収穫を楽しみとしている。		夏は利用者と共に野菜の収穫に出向き、草むしり、外気浴を他の利用者も含め楽しんでいる。

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

家庭的な雰囲気のもとで、利用者と共に生活し支援をおこなっている事から個別ケアを重視している。一人ひとりの尊厳を尊重し、一人ひとりの変化に速やかに対応し安心感をもたれている事から、家族からも安心していただけている。又、地域との交流も増え、協力体制がなされており、安心して地域にて暮らせる環境となってきました。現在も職員が入居したい、家族が申し込みたい等の言葉に感謝し、理念をもとに更なるサービスの向上・職員の質の向上を図り、支援に取り組んでいく方針でいります。